

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	透析患者の予後改善に向けて；血中ビタミン値と栄養指標との関係に注目して				
研究組織	代表者	所属・職名	食品栄養科学部・臨床栄養学研究室・教授	氏名	保坂 利男
	研究分担者	所属・職名	食品栄養科学部・臨床栄養学研究室・助教	氏名	榛葉 有希
		所属・職名	宮地院代表責任者・医師	氏名	宮地 武彦
		所属・職名	食品栄養科学部・臨床栄養学研究室・修士2年	氏名	山田 雄飛
		所属・職名	医療法人社団博仁会 宮地医院 ・管理栄養士	氏名	樋川 千子
		所属・職名	食品栄養科学部・臨床栄養学研究室・修士1年	氏名	中村 風月
		所属・職名	食品栄養科学部・臨床栄養学研究室・4年生	氏名	久保田 千尋
	発表者	所属・職名	食品栄養科学部・臨床栄養学研究室・教授	氏名	保坂 利男

講演題目	透析患者の予後改善に向けて；血中ビタミン値と栄養指標との関係に注目して
研究の目的、成果及び今後の展望	<p><b>【目的】</b> 血液透析（HD）治療は、患者の生活の質を低下させ、栄養障害を高頻度に合併するため、栄養状態を適正に保つ必要がある。栄養障害は、エネルギー摂取不足だけでなく、栄養素であるビタミンやミネラルの摂取不足も関与する。HD患者におけるそれらの摂取量、血清値や栄養指標との関連についての報告は少ないため、関連を明らかにすることを目的に行った。</p> <p><b>【成果】</b> 本検討において、HD患者での栄養障害指標であるGNRI（Geriatric Nutritional Risk Index）は、栄養低下リスク判定基準を上回っていた。ビタミンB1で推定平均必要量を摂取していた割合は9.1%、ビタミンB6、ビタミンC、葉酸では50%以上であった。また、水溶性ビタミン、微量元素摂取量と血中濃度の関連においては、ビタミンB12でのみ有意な正の相関がみられた。水溶性ビタミン、微量元素と栄養指標との関連では、ビタミンB1およびビタミンCの血中濃度がBMIや上腕筋面積、下腿周囲長などの栄養指標と関連した。</p> <p><b>【今後の展望】</b> HD患者において、血中水溶性ビタミンの重要性が栄養状態指標の1つである体格指標の面から支持された。HD患者においても、体内の代謝に関連する血中ビタミンB1と過去の報告から骨格筋量に関連が示唆されている血中ビタミンCが、骨格筋量を含めた栄養状態維持に重要であると考えられる。本検討からHD患者において今後、水溶性ビタミン、ミネラルの栄養摂取からの対策として、それらを栄養補助食品などで補充する事での骨格筋量も含めた栄養関連指標をモニターすることが必要であることを示した。</p>